

**青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（上北）における主な意見**

平成29年2月13日

目次

| | | |
|-------|---|----|
| 1 | 上北地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... | 1 |
| 2 | 全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... | 2 |
| (1) | 重点校、拠点校、地域校について..... | 2 |
| (2) | 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... | 3 |
| ア | 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合..... | 3 |
| イ | 上北地区の重点校を三本木高校、三沢高校とし、農業科、工業科、商業科の拠点校を配置する場合..... | 5 |
| ウ | 農業科、工業科、商業科のいずれかと普通科を統合して新設校を配置する場合..... | 7 |
| エ | 六戸高校と十和田西高校の普通科を統合し、十和田西高校の観光科の学習内容を七戸高校の総合学科に引き継ぐ場合..... | 9 |
| (3) | その他の意見..... | 11 |
| 3 | 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... | 12 |
| 【参考1】 | 委員名簿（上北地区）..... | 13 |
| 【参考2】 | オブザーバー名簿（上北地区）..... | 14 |
| 【参考3】 | 地区意見交換会の開催状況（上北地区）..... | 14 |

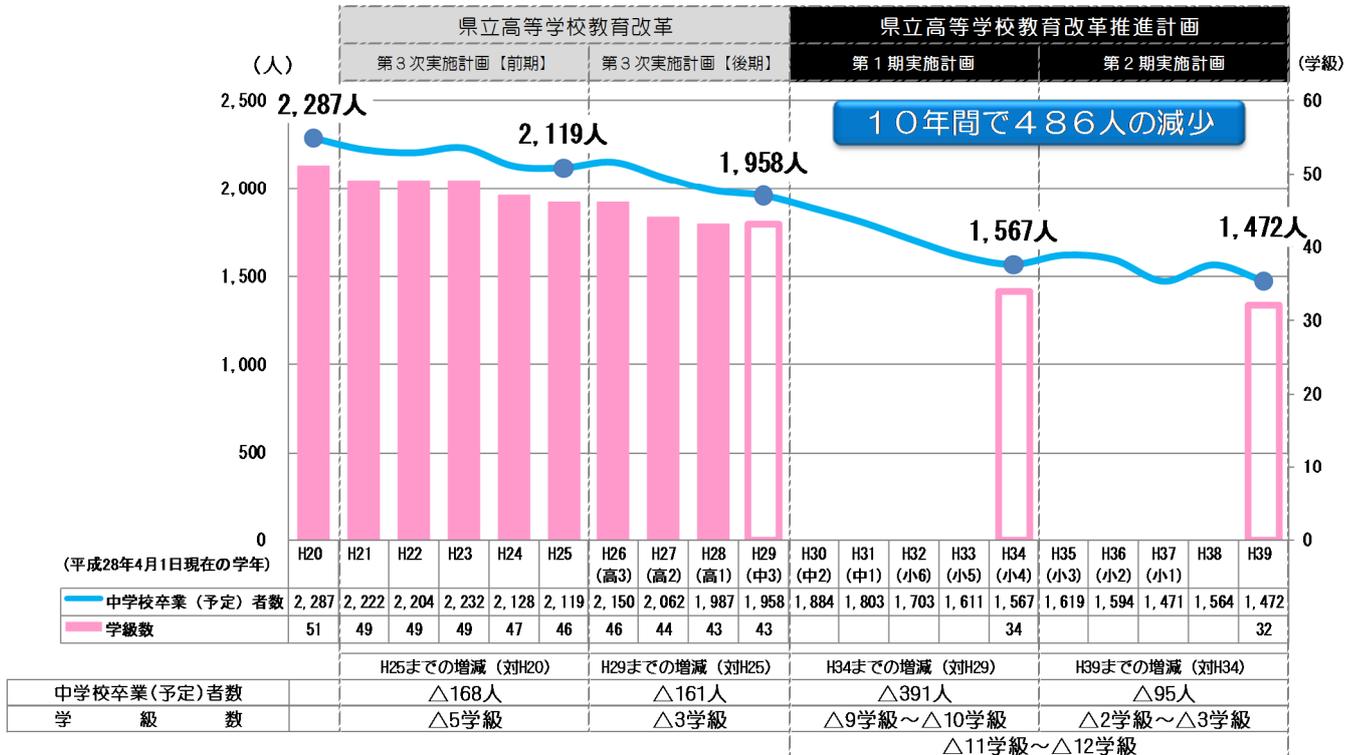
1 上北地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。



| | | | 第1期実施計画 | 第2期実施計画 |
|-----------|---------|------|----------------|-----------------|
| 試案における候補校 | | | H29 | H39 |
| 重点校 | 三本木高校 | 6学級 | △9学級 (対H29) | △11学級 (対H29) |
| 拠点校 | 三本木農業高校 | 5学級 | | |
| 地域校※ | 六ヶ所高校 | 2学級 | | |
| 重点校等の合計 | | 13学級 | | |
| 連携校 | 三沢高校 | 6学級 | | |
| | 十和田工業高校 | 5学級 | | |
| | 七戸高校 | 4学級 | | |
| | 百石高校 | 4学級 | | |
| | 三沢商業高校 | 4学級 | | |
| | 野辺地高校 | 3学級 | | |
| | 十和田西高校 | 2学級 | | |
| | 六戸高校 | 2学級 | | |
| 連携校の合計 | | 30学級 | | |
| 上北地区全体の合計 | | 43学級 | 34学級 | 32学級 |

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、2学級規模の地域校については、入学者数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。また、1学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

(1) 重点校、拠点校、地域校について

① 全般

- 重点校、拠点校の配置について、大筋では同意している。
- 重点校等の配置については適当であるが、連携校に影響が及ぶことのないように配慮してほしい。
- 重点校、拠点校、地域校の配置については、子どもたちのことを第一に考えて進めてほしい。
- 6地区において、高校教育の質が高いレベルで確保されている重点的学校、拠点的学校の継続的な配置を含め、重点校、拠点校、地域校の配置について、よく考える必要がある。
- 重点校、拠点校が各校とどのような連携をするかについては、具体的な取組を考える上で相当な研究が必要である。
- 地域住民にとって、三本木高校や三沢高校は進学校、三本木農業高校や十和田工業高校は実業系の高校という捉え方があることから、あえて「重点校」「拠点校」「連携校」と分ける必要性はないのではないか。

② 重点校

- 子どもたちが将来リーダーとなるために活躍できる場や全国レベルの学習環境が地域として必要であることから、重点校は必要であると考えます。
- 現在は就職率よりも進学率の方が上回っている状態であるため、重点校の設置は大事なことであり、重点校と連携校が情報交換等しながら進学に力を入れていけば、全国や世界で活躍できる人材を育成できると思う。
- 重点校の学校規模は、6学級以上を前提に考える必要がある。
- 重点校においては、医師だけではなく、看護師等の専門分野に生かせるような教育も必要である。
- 重点校が求める生徒像は、もう少し地域の実情に合ったものとし、教育の質の保障について考えてほしい。
- 青森県全体の東京大学合格者数を見ても、岩手県立盛岡第一高校1校の合格者数に届いていない現状から、重点校には既成概念の枠を外した取組が求められる。また、医師や弁護士を目指す学校教育を推進するためには、県立三本木高校附属中学校との関係を整理する必要がある。
- 重点校の性格について考慮してほしい。「選抜性の高い大学への進学に対応する高等学校」とあるが、そもそも高校改革の狙いは、少子化に対応した高校での教育の質の確保ではないか。そういう視点で考えると、重点校は連携校等で不足している教科担任を派遣できるなどのターミナル的な学校であるべきではないか。

③ 拠点校

- 農業が盛んな地域であるため、農業科の拠点校を設置する案に賛成である。
- 上北地区は、土木建設会社が多く存在する地域であり、地域のニーズを考慮し、十和田工業高校を拠点校とすべきである。
- 三沢商業高校は、高崎商科大学の高大連携プロジェクト北海道・東北ブロック協定校として認定され、商業高校としては全国トップクラスにあることから、拠点校とすべきである。

④ 地域校

- 六ヶ所村では、以前から多くの生徒が村外の高校へ進学していることから、下宿やバス通学等は当たり前のこととして捉えている親がいる一方で、家業を継いで生計を立てている家庭では、無理をして村外の高校に行かなくても良いと考えている親もいるため、六ヶ所高校はなくてはならない学校である。

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | | |
|-----|--------------|------------------|--------------|------------|--------------|------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | | |
| | | H29 | | H34 | H39 | |
| 重点校 | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 | |
| 拠点校 | 三本木農業 5学級 | △1学級 → | 三本木農業 4学級 | | 三本木農業 4学級 | |
| 連携校 | 十和田西 2学級 | △1学級 → | 十和田西 1学級 | | 十和田西 1学級 | |
| | 六戸 2学級 | △1学級 → | 六戸 1学級 | | 六戸 1学級 | |
| | 三沢 6学級 | △1学級 → | 三沢 5学級 | | 三沢 ○学級 | |
| | 野辺地 3学級 | △1学級 → | 野辺地 2学級 | | 野辺地 ○学級 | |
| | 七戸 4学級 | △1学級 → | 七戸 3学級 | △2学級 → | 七戸 ○学級 | |
| | 百石 4学級 | △1学級 → | 百石 3学級 | | 百石 ○学級 | |
| | 十和田工業 5学級 | △1学級 → | 十和田工業 4学級 | | 十和田工業 ○学級 | |
| | 三沢商業 4学級 | △1学級 → | 三沢商業 3学級 | | 三沢商業 ○学級 | |
| | 小計 | 41学級 | △9学級 → | 32学級 | △2学級 → | 30学級 |
| | 地域校 | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 |
| 合計 | 43学級 | △9学級 → | 34学級 | △2学級 → | 32学級 | |

① シミュレーションの基となった意見

- 2学級、3学級規模の学校で、どのようにして質を落とさない高校教育ができるか、地域と連携してどのような高校教育ができるかといった議論が必要である。
- 2学級規模の十和田西高校は統合を検討することになると思うが、観光科という特色ある学科を有し、地域貢献に取り組んでいるため、是非存続してほしい。
- 野辺地高校は、北部上北地域の生徒が通学する上で過度の負担がなく、大学に進学できる学校として必ず配置してほしい。
- 三沢商業高校は、過去3年間の在校生の出身中学校が、三沢市を中心に上北郡、三八地域の39校となっており、広域からの入学希望者が非常に多いことを考慮してほしい。
- 百石高校は、生徒にとって複数の学科を有する高校として貴重な存在である。

② 期待される効果等

- 地域と密着した教育活動の展開により、地方創生の起爆剤ともなり得る。
- 通学による負担が少なくて済む。
- 期待される効果はない。

③ 更に検討を要する課題等

- 活気のある教育活動を考えると、望ましい学校規模は4学級以上だと思う。
- 学級数が少なくなっても学校を残した結果、学校に活気がなくなるようであれば子どもたちにとって良くない。
- オール青森の視点で、各地域の学校を支援していくことを考えれば、一定規模を維持した方が良い。
- 1学級規模や2学級規模の学校では、社会性や人間性が高まらないと考えるため学校規模は3学級、4学級以上にしてほしい。
- 子どもたちを育てる環境としては、1学級規模の学校では難しいため、少なくとも2学級以上は必要だと考える。
- 1学級規模となった場合、開設できない科目が多くなることを考えると、高校教育を受ける機会の確保が本当に可能なのか疑問を感じる。
- 1学級規模では、生徒が卒業後に大きな世界の中で生きていくための社会性や人間性を十分育成できないのではないかと危惧されることから、現在ある高校を全て配置する考え方は現実的ではない。

イ 上北地区の重点校を三本木高校、三沢高校とし、農業科、工業科、商業科の拠点校を配置する場合

| | 第3次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|-----|--------------|------------------|--------------|-----------|--------------|
| | | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | | H29 | | H34 | |
| 重点校 | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 |
| | 三沢 6学級 | | 三沢 6学級 | | 三沢 6学級 |
| | 三沢商業 4学級 | | 三沢商業 4学級 | | 三沢商業 4学級 |
| 拠点校 | 三本木農業 5学級 | | 三本木農業 ○学級 | | 三本木農業 ○学級 |
| | 十和田工業 5学級 | | 十和田工業 ○学級 | | 十和田工業 ○学級 |
| | 十和田西 2学級 | | 十和田西 ○学級 | | 十和田西 ○学級 |
| 連携校 | 野辺地 3学級 | △9学級 → | 野辺地 ○学級 | △2学級 → | 野辺地 ○学級 |
| | 七戸 4学級 | | 七戸 ○学級 | | 七戸 ○学級 |
| | 六戸 2学級 | | 六戸 ○学級 | | 六戸 ○学級 |
| | 百石 4学級 | | 百石 ○学級 | | 百石 ○学級 |
| | 小計 | 41学級 | △9学級 → | 32学級 | △2学級 → |
| 地域校 | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 |
| 合計 | 43学級 | △9学級 → | 34学級 | △2学級 → | 32学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 重点校について、地区内に複数校設置し、競い合いながらレベルアップを図ることができると思う。
- 重点校が地区で1校となると、その学校だけに力が注がれる印象を受ける。
- 上北地区は、土木建設会社が多く存在する地域であり、地域ニーズを考慮し、十和田工業高校を拠点校とすべきである。
- 三沢商業高校は、高崎商科大学の高大連携プロジェクト北海道・東北ブロック協定校として認定され、商業高校としては全国トップクラスにあることから、拠点校とすべきである。

② 期待される効果等

- 相互に切磋琢磨することの効果が大いと思われるため、重点校、拠点校を複数配置することに賛成である。
- それぞれの高校の更なる特色化につながるのではないか。
- 他校を意識して競い合うため、学力の向上につながる。
- 各地区に農業科、工業科、商業科の拠点校を配置した方が、子どもたちに安定した教育環境を提供できるのではないか。

③ 更に検討を要する課題等

- 重点校の学校規模は6学級以上を標準としているが、生徒数が全体的に減少していく中で、高校教育の質の確保・向上が可能なのか。重点校の規模を維持していくために、これまで連携校に入学していた生徒を重点校が受け入れることになるか考える。その結果、重点校の合格水準が下がるのではないかと懸念される。
- 仮に重点校を2校、拠点校を3校配置した場合、果たしてそれぞれの高校が、重点校の1学年6学級以上、拠点校の一つの専門学科で1学年4学級以上という学校規模を満たすことができるのか。さらに、他の高校の存続に関する影響はどうなるのか。
- アの「平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合」との違いは、重点校等の学校数だけであり、思い切った統合・再編をしない限り、改革にはつながらないと思う。
- 重点校が2校になれば、優秀な生徒が分散されて各校が目指している目標を達成しづらくなる。
- 各高校が特色を出しながら生徒を集めることができれば、教育の質は上がっていくものとする。一定の学校規模を確保すれば、教育の質が上がるとは考えられないため、重点校を複数設置すれば良いという考え方には疑問を感じる。

ウ 農業科、工業科、商業科のいずれかと普通科を統合して新設校を配置する場合

| | 第3次 実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | | | | |
|-----|------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|------------------|---------------------------------|
| | | 第1期実施計画 | | | 第2期実施計画 | | | |
| | | H29 | H34 | | | H39 | | |
| | | <パターン1> | <パターン2> | <パターン3> | <パターン1> | <パターン2> | <パターン3> | |
| 重点校 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | 三本木 6学級 | |
| 拠点校 | 三本木 農業 5学級 | 新設校 農業科 ○学級 普通科 ○学級 | 三本木 農業 ○学級 | 三本木 農業 ○学級 | 新設校 農業科 ○学級 普通科 ○学級 | 三本木 農業 ○学級 | 三本木 農業 ○学級 | |
| 連携校 | 十和田西 2学級 | △9学級 → | 新設校 工業科 ○学級 普通科 ○学級 | 新設校 工業科 ○学級 普通科 ○学級 | 十和田 工業 ○学級 | 新設校 工業科 ○学級 普通科 ○学級 | 十和田 工業 ○学級 | |
| | 六戸 2学級 | | 三沢商業 ○学級 | 三沢商業 ○学級 | 新設校 商業科 ○学級 普通科 ○学級 | 三沢商業 ○学級 | 三沢商業 ○学級 | 新設校 商業科 ○学級 普通科 ○学級 |
| | 十和田 工業 5学級 | | 三沢 ○学級 | 三沢 ○学級 | 三沢 ○学級 | 三沢 ○学級 | 三沢 ○学級 | 三沢 ○学級 |
| | 三沢商業 4学級 | | 野辺地 ○学級 | 野辺地 ○学級 | 野辺地 ○学級 | 野辺地 ○学級 | 野辺地 ○学級 | 野辺地 ○学級 |
| | 三沢 6学級 | | 七戸 ○学級 | 七戸 ○学級 | 七戸 ○学級 | 七戸 ○学級 | 七戸 ○学級 | 七戸 ○学級 |
| | 野辺地 3学級 | | 百石 ○学級 | 百石 ○学級 | 百石 ○学級 | 百石 ○学級 | 百石 ○学級 | 百石 ○学級 |
| | 七戸 4学級 | | △2学級 → | △2学級 → | △2学級 → | △2学級 → | △2学級 → | △2学級 → |
| | 百石 4学級 | | 小計 | 3 2学級 | 3 2学級 | 3 2学級 | 3 0学級 | 3 0学級 |
| 地域校 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | 六ヶ所 2学級 | |
| 合計 | 4 3学級 | △9学級 → | 3 4学級 | 3 4学級 | 3 4学級 | △2学級 → | 3 2学級 | 3 2学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 中学校の段階で将来像が固まっていない子どもたちは、普通科を選択する傾向がある。そこで、大学のキャンパス制のように農業科、工業科、商業科に加えて普通科の校舎を設置して、自分の将来に照らして編入できるような学校をつくることで社会にマッチした子どもたちを育成することができるのではないか。

② 期待される効果等

- 共通教科の教員を共有できるため、開設科目が多くなる。
- 専門学科に入学してからも大学進学之道が開けたり、今後自分の将来に照らして普通科に編入できたりするようになる可能性を考えると、選択肢としてあり得る。
- 選択できる教科・科目が増加するため、学習の幅が広がる。
- 百石高校は普通科と食物調理科を併置することで実績を上げている。重点校を増やすよりも、普通科と専門学科を併置することで大学進学に対応できないものかと考えている。
- 十和田西高校の観光科と十和田工業高校が統合すれば、面白い取組ができるのではないかと。
- 将来の進路が明確でない中学生は、普通科に進学するケースが多い。明確な目標を持っている生徒でなければ専門学科に進学しないため、統合により選択肢が増えることのメリットは大きいと考える。

③ 更に検討を要する課題等

- 当地区には総合学科を有する高校があるため、その関わりをどうするか。
- 専門高校の専門性が低下することにはならないか。
- 新たな学校の設置については、施設、設備等に相当な費用を要すると思われるため、費用対効果等も含め、将来的な展望を十分考慮した上で判断すべきである。
- 三本木農業高校に普通科を併置することで、農業科の拠点校としての教育活動が鈍くならないか。
- 普通科と専門学科を併置することで、学校の特色を出すことが非常に難しくなるのではないかと。
- 効果的というよりもむしろマイナスだと思う。

④ その他

- 大学のキャンパスのイメージで、普通科、農業科、工業科、商業科のある高校を設置して、子どもたちのニーズに合わせて普通科から農業科、工業科、商業科への編入を可能にするなど、1学級規模の学校が増えそうなどときには思い切った発想も必要ではないか。
- 十和田工業高校や三本木農業高校等の既存の校舎を利用する。

エ 六戸高校と十和田西高校の普通科を統合し、十和田西高校の観光科の学習内容を七戸高校の総合学科に引き継ぐ場合

| | 第3次実施計画 | | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | |
|-----|---------------------------------|-----------|-----------------------|-----------|-----------------------|
| | H29 | 第1期実施計画 | | 第2期実施計画 | |
| | | | H34 | | H39 |
| 重点校 | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 | | 三本木 6学級 |
| 拠点校 | 三本木農業 5学級 | | 三本木農業 ○学級 | | 三本木農業 ○学級 |
| 連携校 | 六戸 2学級 | | 新設校A (普通科) ○学級 | | 新設校A (普通科) ○学級 |
| | 十和田西 普通科1学級 観光科1学級 2学級 | | 新設校B (総合学科) ○学級 | | 新設校B (総合学科) ○学級 |
| | 七戸 4学級 | | 十和田工業 ○学級 | △2学級 → | 十和田工業 ○学級 |
| | 十和田工業 5学級 | △9学級 → | 三沢 ○学級 | | 三沢 ○学級 |
| | 三沢 6学級 | | 野辺地 ○学級 | | 野辺地 ○学級 |
| | 野辺地 3学級 | | 百石 ○学級 | | 百石 ○学級 |
| | 百石 4学級 | | 三沢商業 ○学級 | | 三沢商業 ○学級 |
| | 三沢商業 4学級 | | | | |
| | | | | | |
| 小計 | 41学級 | △9学級 → | 32学級 | △2学級 → | 30学級 |
| 地域校 | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 | | 六ヶ所 2学級 |
| 合計 | 43学級 | △9学級 → | 34学級 | △2学級 → | 32学級 |

① シミュレーションの基となった意見

- 六戸高校と十和田西高校の普通科の統合は考えられないか。十和田西高校の観光科を七戸高校に組み入れることは難しいのか。

② 期待される効果等

- 統合して学級数が増えることにより、学習環境の向上と生徒の社会性や協調性の育成につながる。
- 環境省による国立公園満喫プロジェクトにおいて、十和田八幡平国立公園が選定されたこともあり、十和田西高校の観光科という特色ある学科を存続させることは、この地域の観光産業の未来、地方創生を考える上で有益である。
- 七戸高校が観光科の学習内容を引き継ぐ場合、総合学科であることを考えると学級数を増やさずに対応可能と考えられるため一石二鳥である。

③ 更に検討を要する課題等

- 七戸高校の総合学科で観光科の学習内容を引き継ぐことについては、十和田西高校に観光科が設置された経緯、これまでの教育活動が奥入瀬・十和田湖をフィールドとして展開してきたこと等を考慮し、検討する必要がある。
- 他県では工業高校に観光科が設置されている事例もあるため、いろいろと検討してみる必要がある。

④ その他

- 近隣のホテルや温泉旅館からは、外国人観光客への対応として第二外国語を学習に取り入れてほしいなどの要望があることから、観光科は十和田市内の高校に設置してほしい。

(3) その他の意見

(学校規模・配置)

- 生徒のニーズに対応するため、将来的には異なる学科を有する学校も必要になると思う。
- 特定の地域においては、昨年度よりも中学生が増えているという実情を考慮した学校配置としてほしい。
- 生徒数の減少を前提とした計画では、学校規模の標準を満たさない学校の統廃合など、一方向だけになるのではないか。
- 三本木高校が重点校で、重点校に準ずる学校が三沢高校となれば、両校以外の普通科を希望する七戸町、東北町、十和田市、三沢市、六戸町の生徒は、他の自治体に所在する学校に進学するか、専門高校に進学するしかない。
- 十和田西高校と三本木高校、六戸高校と三沢高校を統合して、それぞれ三本木高校と三沢高校の既存の校舎を利用する。
- 十和田工業高校、三本木農業高校及び三沢商業高校の3校が存在するお陰で、地元企業は大変優秀な人材を採用することができ、この地域の経済が回っていると言っても過言ではない。高校教育改革は子どもたちのことを第一に考えることは勿論だが、経済的側面も大変重要であるため、学校配置については特段の配慮が必要だと思う。
- 教育の質を高めるために学校数を減らすのではなく、教育の質に合わせた学校配置をすべきである。
- 学校が小規模化すれば部活動ができなくなるなど、子どもたちにとって弊害が出てくる。子どもたちの頑張りを応援して、夢を実現させたいというのが親の思いである。
- 子どもたちが減っていく中、学校規模の標準は、果たして4学級以上で良いのかという疑問を感じる。

(学科等)

- 普通科志望者は全中学生の半分以上を占めているが、上北地区において将来削減対象になると思われる2学級以下の学校のほとんどは普通科であることから、これらの学校が募集停止となれば、ますます普通科の定員割合が減ることになる。
- 七戸町、東北町、十和田市、三沢市、六戸町で普通科を希望する生徒の割合は50%強である。それに対して、これらの自治体における普通科の割合は40%強であり、学校規模の標準を踏まえて六戸高校、十和田西高校が統合されると、普通科の割合が更に少なくなる。
- 三沢高校は英語科のノウハウを普通科の教育活動に還元することが考えられる。
- 専門高校に入学後、進路志望の変更等に伴い、普通高校に年度途中で編入できるような仕組みがあれば中学校としては助かる。
- 専門学科で学んで大学に進学する生徒が増えてきていることから、専門高校であっても普通科の進学校のように共通教科にも力を入れて、教育の質を向上させるような取組をしてほしい。
- 六ヶ所高校において、原子力、風力や太陽光に関する専門家から指導を受けられるような魅力的な学科をつくり、生徒を全国募集しても良いのではないか。
- 現状として建設産業の人材不足があるため、地域産業を生かした資格取得を通して専門職に就けるような学校づくりをしてほしい。
- 青森の魅力をアピールすることが足りないと感じている。食物調理科や観光科は子どもたちにとって興味のある学科だと思うので、もっと県外にもアピールした方が良いのではないか。

(連携校等)

- 医療系を目指す教育に重点を置く学校やグローバル社会に対応できる能力を身に付けることに重点を置く学校を配置し、子どもたちが自らの希望で選択できるような学校というイメージを持てるようにしてほしい。
- 現在2学級から3学級規模の小規模校に対して、6学級規模の教育内容を求めることは不可能であるが、小規模校には小規模校のメリットがたくさんある。そのメリットをどのように生かすのかを総合的に考えていかなければならない。
- 専門的知識を有する教員が各校を定期的に巡回して教科指導をすることも考えられる。

(生徒の通学)

- 東北町の生徒は、青い森鉄道や路線バスにより通学しているが、最寄り駅までもかなりの距離があり、親にとっては送迎の負担が非常に大きい。十和田市内の高校に通学するには、年間約25万円の交通費が必要になるため、交通費の負担を緩和できるような施策の検討をお願いしたい。
- 横浜町には高校がないため、通学支援策については町で考えていく必要があるが、県でも検討してほしい。
- バス等の利用者減少に伴う公共交通機関の利便性の変化等により、郡部に住む生徒が不公平感を持つことのないような配慮が必要である。

(その他)

- 学校には人間形成ができる環境づくり、自分から意欲を持って学ぶ環境づくりが求められている。
- 普通科1学級の定員は40人となっているが、35人という考え方はないのか。
- 小規模校における1学級の募集定員を減らして、マンツーマンで個人の力を伸ばすこともできるのではないか。
- 三本木農業高校の寄宿舎を活用して、生徒を全国募集すれば良い。
- 上北地区全体で全国募集ができるような体制づくりも考えていく必要がある。
- 現在、情緒障害等の発達障害を抱える子どもたちが増えているが、中には非常に高い知能を持っている子どもたちもいる。そのような子どもたちが普通科の高校に進学しても高い知能を発揮できるような体制づくりをお願いしたい。
- 高校教育を受ける機会の確保とは、入学定員枠を設けるものではなく、中学生が進学したい学科の配置と定員数を考慮したものでなければならない。
- 学校の統廃合によって削減される費用を、生徒の交通費、下宿、寮に係る経費の補助に当ててはどうか。
- 制度に合わせて子どもを指導するのではなく、子どもに合わせた制度設計をしてほしい。

3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 定時制課程・通信制課程の学校配置については、現状の配置に同意するが、特別な支援を必要とする子どもが増えているため、そのような子どもも一緒に高校教育を受けられるような取組も考えてほしい。
- 不登校生徒の問題等に対応するためにも、最後のチャンスである定時制課程・通信制課程への入学は、定員内であれば生徒の希望を叶える方向であってほしい。

【参考1】委員名簿（上北地区）

（敬称略）

| 区分 | 所属等 | 委員名 | 備考 |
|-----------|--|--------|-----|
| 市町村教育委員会 | 十和田市教育委員会 教育長 | 米田 省三 | |
| | 三沢市教育委員会 教育長 | 吉田 健 | |
| | 野辺地町教育委員会 教育長 | 浅利 能之 | |
| | 七戸町教育委員会 教育長 | 神 龍子 | |
| | 六戸町教育委員会 教育長 | 櫻田 泰弘 | |
| | 横浜町教育委員会 教育長 | 柏谷 弘陽 | |
| | 東北町教育委員会 教育長 | 漆戸 隆治 | |
| | おいらせ町教育委員会 教育長 | 福津 康隆 | |
| | 六ヶ所村教育委員会 教育長 | 橋本 博子 | |
| P T A 関係者 | 十和田市連合P T A 会長 （十和田市立三本木中学校P T A 会長） | 岩間 貴 | |
| | 三沢市連合P T A 副会長 （三沢市立第五中学校P T A 副会長） | 横田 涉子 | |
| | 上北郡連合P T A 会長 （野辺地町立野辺地中学校P T A 会長） | 赤垣 義憲 | |
| | 青森県高等学校P T A連合会 上十三地区協議会 会長 （県立七戸高等学校P T A 会長） | 三上 義也 | |
| 産業界 | 十和田商工会議所 副会頭 | 今泉 湧水 | |
| 小中学校長会 | 上北地方小学校長会 会長 （三沢市立木崎野小学校 校長） | 富田 敦 | |
| | 上北地方中学校長会 副会長 （六ヶ所村立第一中学校 校長） | 高橋 喜美夫 | |
| | 元県立三本木高等学校 校長 | 長谷川 光治 | 進行役 |

【参考2】オブザーバー名簿（上北地区）

（敬称略）

| 所 属 等 | オブザーバー名 | 備 考 |
|----------------|----------|-----|
| 県立三本木高等学校 校長 | 長者久保 雅 仁 | |
| 県立十和田西高等学校 校長 | 對 馬 祐 之 | |
| 県立三沢高等学校 校長 | 福 士 順 一 | |
| 県立野辺地高等学校 校長 | 漆 館 栄 一 | |
| 県立七戸高等学校 校長 | 佐々木 孝 之 | |
| 県立六戸高等学校 校長 | 鈴 木 雅 博 | |
| 県立百石高等学校 校長 | 荒 川 由美子 | |
| 県立六ヶ所高等学校 校長 | 川 村 卓 也 | |
| 県立三本木農業高等学校 校長 | 瀧 口 孝 之 | |
| 県立十和田工業高等学校 校長 | 濱 中 瑞 洋 | |
| 県立三沢商業高等学校 校長 | 池 田 敏 | |
| 県立七戸養護学校 校長 | 伊 藤 清 治 | |

【参考3】地区意見交換会の開催状況（上北地区）

| 回 | 年月日 | 内容 |
|---|-------------|--|
| 1 | 平成28年 9月16日 | ○学校規模・配置に関する意見発表 |
| 2 | 平成28年11月16日 | ○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換 |
| 3 | 平成29年 1月26日 | ○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換 |